

報道関係 各位

2017年4月17日

株式会社日本レースプロモーション

4月22日(土)～23日(日)
2017 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース
2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権第1戦
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、4月22日(土)～23日(日)の2日間、三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周:5.807km)において「2017 NGKスパークプラグ 鈴鹿2&4レース 2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権第1戦」を開催いたします。今大会では、周回数 35周、トータル203.245kmのレースを、11チーム(エントリー)、国内外の19名(19台)のドライバー(※1)で争います。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(ニュージーランド、スウェーデン、フランス、イギリス、ドイツ、インド)6名

今大会は、レース中に1本以上のタイヤ交換が義務付けとなっており、タイヤをいつ何本交換するのか、給油の有無など、レースの距離とピットインでの作業の選択によって、戦略的な駆け引きのあるレース展開が予想されます。

昨年のシリーズチャンピオン国本 雄資(ピーエムユーセルモインギング)を始め、これまでにチャンピオン経験のあるドライバーは5名に上り、石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)、中嶋 一貴(バンテリチン チーム トムス)、アンドレ・ロッター(バンテリチン チーム トムス)、山本 尚貴(チーム・ムゲン)らは王座奪還を狙います。他にも、昨年ルーキーながら2勝を挙げ、チャンピオンを争った関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)、今シーズンチームを移籍した小林 可夢偉(ケーシーエムジー)など、強豪がひしめきます。

さらに今シーズンは5名のルーキーにも注目です。2016年GP2チャンピオンのピエール・ガスリー(チーム・ムゲン)、マカオGPにおいて2014年より2連覇を達成したフェリックス・ローゼンクヴィスト(スノコ チーム ルマン)らが海外から参戦。また、2015年全日本F3のデビューイヤーでチャンピオンに輝いたニック・キャシディ(コンドー レーシング)や、2016年全日本F3のチャンピオンの山下 健太(コンドー レーシング)、同2位のヤン・マーデンボロー(イトウチュウエネクス チーム インパル)など、国内外の各カテゴリーで輝かしい結果を残してきたルーキー達がどこまで上位に食い込んでくるのか、彼らの活躍に期待が集まります。

また、HONDA、TOYOTA 両メーカーのエンジンは基本性能が向上し、独自の熟成によって、開発競争は次のステージを迎えています。タイヤサプライヤーとして2年目を迎える横浜ゴムもタイヤのスペックを一新。ハード面の進化も重要なポイントとなっています。

そして、今シーズンから全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズをより多くの方々に楽しんでいただく為、BSフジにて日曜の決勝レース全戦を無料・全国一斉放送いたします。また、J SPORTSによる予選・決勝中継も、引き続きこれまで通り放送いたします。

今シーズンを占う意味で重要な一戦となる事が想定される今大会にご注目ください。



左より、2016年 全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズチャンピオン No.1 国本 雄資(ピーエムユーセルモインギング)、No.15 ピエール・ガスリー(チーム・ムゲン)、No.3 ニック・キャシディ(コンドー レーシング)、No.4 山下 健太(コンドー レーシング)、No.20 ヤン・マーデンボロー(イトウチュウエネクス チーム インパル)、No.7 フェリックス・ローゼンクヴィスト(スノコ チーム ルマン)

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日本オートモティブシステムズ
SONY Action Cam
ASAHI BEER 朝日 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

公式予選

公式予選はノックアウト方式。

各車時間内にタイムアタックを行い、まずQ1(20分間)で15位～19位のスタート位置を決定し、14位以上はQ2に進出。10分間のインターバル後、Q2(7分間)を行い9位～14位のスタート位置を決定します。さらに10分間のインターバルの後、Q3(7分間)を行い、1位～8位の決勝レーススタート位置を決定します。

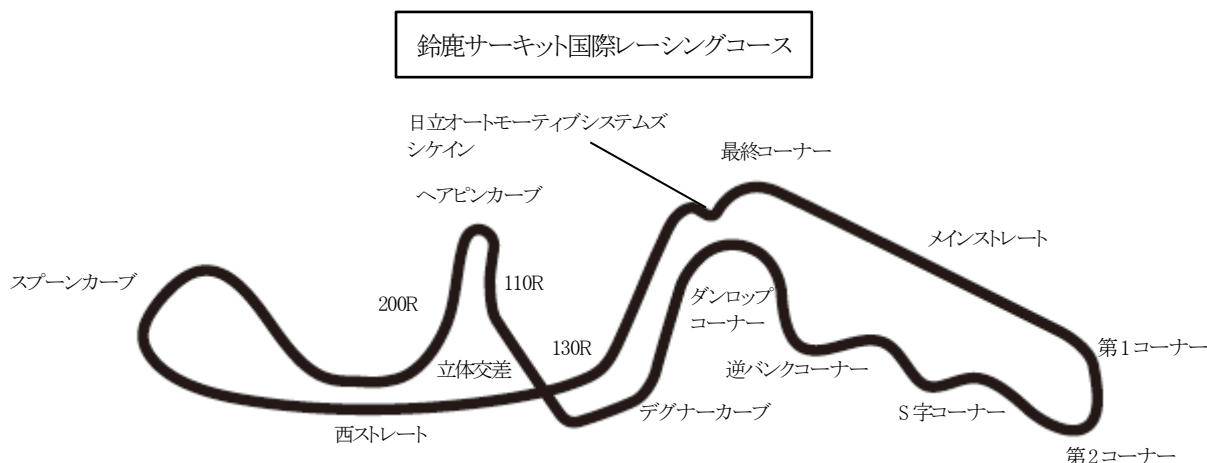
尚、ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

決勝レース

鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周5.807km)を35周、トータル203.245kmにて争われます。レース中1本以上のタイヤ交換が義務付けられています。尚、雨天時には、交換義務が発生しません。

鈴鹿サーキット国際レーシングコースについて

コースは東西に細長く、中間部分の立体交差をはさんで右回りと左回りが入れ替わる、世界的にも珍しい∞の字形のレイアウトとなっています。コース全長は5.807kmで、日本のサーキットの中で最長です。コース幅は10～16m。コーナー数は18。最大高低差は52m。世界の多くのサーキットと比べ摩擦係数の高いアスファルト舗装です。土地の高低差と低速～高速コーナーのバランスが上手く配合されており、難易度が高く走り甲斐のあるコースとして評価されています。



Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ

SONY Action Cam

ASAHI BEER 朝日 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権第1戦 エントリーリスト

(車両:SF14、タイヤ:ヨコハマ)

2017年3月4日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県	P.MU/CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモイニング)	立川 祐路	TOYOTA RI4A
2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都			
3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA RI4A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	1991/11/ 7	スウェーデン	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコチームルマン)	片岡 龍也	TOYOTA RI4A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	1996/ 2/ 7	フランス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	KCMG (ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA RI4A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チームインパル)	星野 一義	TOYOTA RI4A
20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	1991/ 9/ 9	イギリス			
36	アンドレ・ロッテラー Andre Lotterer	1981/11/19	ドイツ	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チームトムス)	舘 信秀	TOYOTA RI4A
37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県			
40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			
50	小暮 卓史 Takashi Kogure	1980/ 8/ 1	日本/群馬県	B-Max Racing team (ビーマックスレーシングチーム)	組田 龍司	HONDA HR-417E
64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	1989/ 1/29	日本/愛知県	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ
SONY ActionCam
SONY ELECTRONICS
人 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

－開催概要－

- 大会名称： 2017 NGKスパークプラグ 鈴鹿2&4レース
2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦
- 開催日程： 2017年4月22日(土) 公式予選
2017年4月23日(日) 決勝
- オーガナイザー： (4輪)
グループ・オブ・スピードスポーツ(GSS)
鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
株式会社モビリティランド
(2輪)
一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)
株式会社モビリティランド
- 公認： (4輪)
国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
(2輪)
国際モーターサイクルズ連盟(FIM)
一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)
- 認定： 株式会社日本レースプロモーション (JRP)
日本フォーミュラスリー協会(JF3A)
- 後援： スポーツ庁(予定)／観光庁(予定)／三重県／鈴鹿市／鈴鹿F1ニッポングランプリ地域活性化協会
／一般社団法人鈴鹿市観光協会／鈴鹿商工会議所／東京中日スポーツ／中日スポーツ／
中日新聞社
- 同日開催： 2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦
2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦(JSB1000 鈴鹿200km耐久レース)
“コカ・コーラ”鈴鹿8耐第40回記念大会 出場選抜レース 8耐トライアウト1stステージ
2017年 全日本フォーミュラ3選手権 第4戦&第5戦
2017 N-ONE OWNER'S CUP Rd.4

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦生中継『2017スーパーフォーミュラ第1戦鈴鹿』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。オフィシャルコメンテーター・ピエール北川と、アンバサダー本山哲の場内実況がサーキットの臨場感をリアルに伝え、ピットからはレース解説に定評のある松田次生と、今シーズンから初参戦の東(ひがし)美樹が、現場の緊張感をレポートします。

○放送時間：4月23日(日)午後1時35分～2時55分

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

番組では、注目のレース関係者や豪華ゲストを招き「人」をテーマにトークを展開、スーパーフォーミュラの魅力に迫ります。MCは小林可夢偉と中嶋大祐の現役ドライバー2人。その2人をピエール北川がサポートし、さらに乃木坂46の樋口日奈がナレーターとして華を添えます。加えて、レースダイジェストコーナーでは、ピットリポーター松田次生がトップドライバーならではの徹底解説をお届けし、東美樹が現地でアシストをします。

○放送時間：第2回 5月13日(日)午後11時00分～11時55分

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の様様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

○放送時間：4月22日(土) 午後1:50～ 予選 生中継 JSPORTS 3

4月23日(日) 午後1:10～ 決勝戦 生中継 JSPORTS 3

【映像の配信】

■ GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※ 配信日時は変更となる場合があります。

詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」(<http://www.superformula.net/>)でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【インターネット／SNS】

- スーパーフォーミュラオフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

- スーパーフォーミュラオフィシャルtwitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

●前売観戦券(2日間有効)

大人1名:4,000円／中高生:1,700円／小学生:800円／3歳～未就学児:600円

※4月21日(金)も入場可

●グループチケット(2日間有効)

3名:10,800円(1名あたり3,600円)

4名:13,600円(1名あたり3,400円)

5名:16,000円(1名あたり3,200円)

遊園地モトピアパスポート1日券付

※4月21日(金)も入場可

●パドックパス

中学生以上:7,200円／3歳～小学生:2,000円

※別途観戦券が必要

●ピットウォーク券

中学生以上:2,100円(各日)／3歳～小学生:無料

※別途観戦券が必要

レースチケットのご案内(<https://mls.mobilityland.co.jp/onlineshop/Default.aspx>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)

102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 平安堂ビル

e-mail:media@superformula.net

Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントラント)、国内外の19名(19台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(ニュージーランド、スウェーデン、フランス、イギリス、ドイツ、インド)6名

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 22 ~ 23	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	200 km
5 / 27 ~ 28	第2戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	2 レース制
7 / 8 ~ 9	第3戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 19 ~ 20	第4戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 9 ~ 10	第5戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
9 / 23 ~ 24	第6戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
10 / 21 ~ 22	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	2 レース制

2017年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1
1大会2レース	5	4	3	2.5	3	1.5	1	0.5	0	1

*P.P.:ポールポジション(予選1位)には、ドライバーにのみ1ポイントが与えられます。チームポイントには加算されません。

*1大会2レース制の場合、レース1、レース2共に1レース制の得点の半分が与えられます。

*1大会2レース制の場合、最終戦に限りレース1、レース2の勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。これによりポールポジション+2連勝で最大18ポイントが与えられます。

*最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチーム(エントラント)が同一ポイントを獲得している場合は、高得点を得た回数が多い順に順位を決定します。

3. シリーズ賞典

シリーズ賞典として、年間チャンピオンドライバーには、株式会社日本レースプロモーションよりシリーズドライバーズチャンピオンカップと賞金が授与されるほか、自由民主党モータースポーツ振興議員連盟より同連盟杯が増られ、観光庁より観光庁長官杯が交付されます。また年間チャンピオンチームには経済産業省より経済産業大臣杯が交付され、株式会社日本レースプロモーションより賞金が授与されます。

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
◎日本オートモティブシステムズ

SONY Action Cam

ASAHI BEER 朝日 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からの注目を集めるようになりました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA R14A を搭載しています。

このエンジンの特徴としては「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会…燃料流量95kg/h
その他大会……………燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みです。

当該システムは、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。

SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※3)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。

またポイントリーダードライバーは、その栄誉を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※3)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。